

経営比較分析表（平成28年度決算）

高知県 安芸市

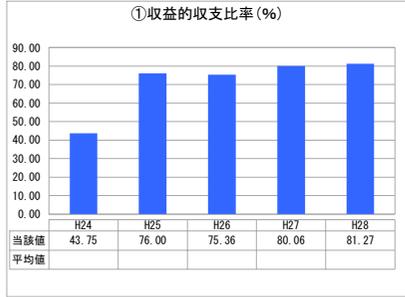
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.43	102.47	2,268

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,944	317.21	56.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
965	0.43	2,244.19

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

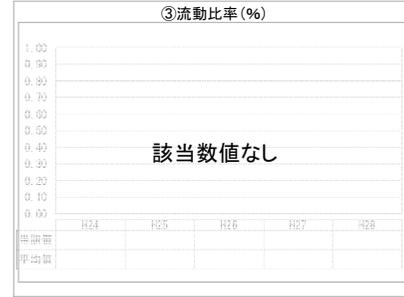
1. 経営の健全性・効率性



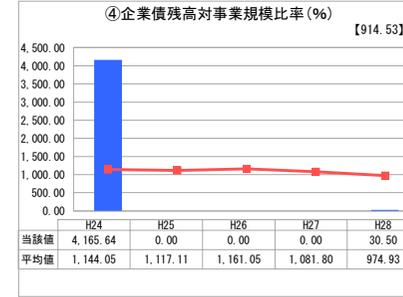
「単年度の収支」



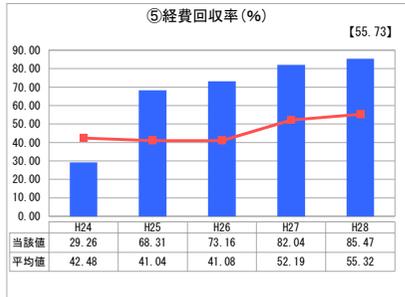
「累積欠損」



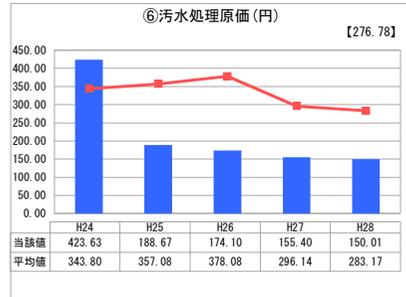
「支払能力」



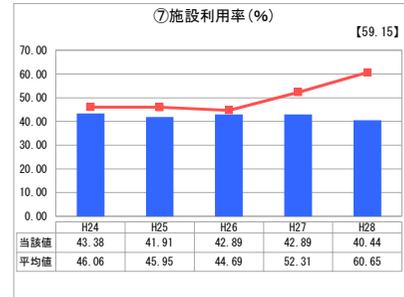
「債務残高」



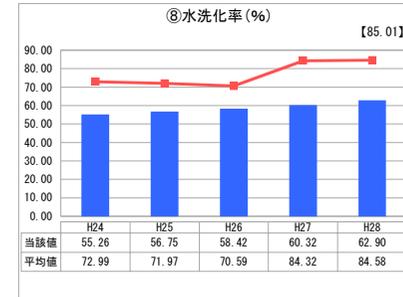
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

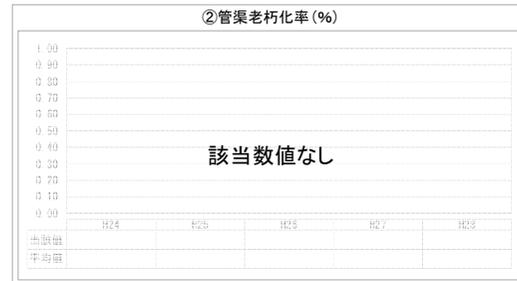


「使用料対象の捕捉」

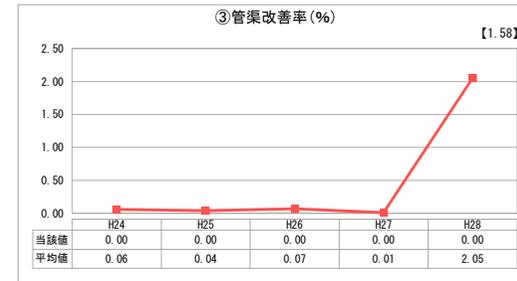
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①H25年度に一般会計からの繰出基準を見直した結果、比率が上がっているが100%に満たず、低い水準にある。

④H25年度に一般会計からの繰出基準を見直した結果、H28年度は比率が30になった。企業債残高は年々減少しているが、残高自体が無くなったわけではない。企業会計における負担が0になったとはいえ、引き続き経営改善に取り組む必要がある。

⑤H25年度に一般会計からの繰出基準を見直した結果、回収率が極端に上がった。しかしながら、経営状況が好転したわけではなく、引き続き経営改善に取り組む必要がある。

⑥H25年度に一般会計からの繰出基準を見直した結果、単価が極端に下がった。しかしながら、汚水処理そのものが効率化したわけではなく、今後も不透明水対策などに取り組む必要がある。

⑦平均値を下回っており、施設利用率向上のための適切な施設規模の検討が必要である。

⑧毎年度微増しているものの平均値を下回っており、水洗化率向上のための普及啓発活動の強化が必要である。

2. 老朽化の状況について

③現時点では更新が急がれる管渠は無い。

全体総括

料金水準適正化の検討、接続率向上のための啓発などに取り組む、他会計繰入金金の依存度を下げる必要がある。

今後は処理場の長寿命化も必要であり、より健全・効率的な経営が求められる。

平成29年度 機能診断（赤野処理区）
 平成30年度予定 機能診断（奈賀処理区）
 平成31年度予定 最適整備構想
 平成32年度予定 計画策定
 平成33年度予定 機能強化対策工事

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。